

市史編さんだより

2009. 5. 1

〒229-0021

相模原市高根 3-1-19

電話 042-750-8025

FAX 042-750-8039

発行 相模原市総務局総務課市史編さん室

ホームページ: <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp>

E-MAIL: shishi@city.sagamihara.kanagawa.jp

身近に感じてもらえる一冊です

—市史『自然編』 6月にはお手もとに—

市史『自然編』は、地形・地質分野と動物・植物分野とで構成されていますが、それぞれの分野の専門書としてだけでなく、市民の皆様にも身近に感じてもらえるようにいろいろな話題を盛り込んでいます。



地形・地質分野では、「後世に伝えたい地学的遺産」として題して、中津層群の貝化石や文化遺産としての湧泉、田名向原遺跡など9項目を掲載しています。また、動物・植物分野では、「自然と生き物の話題」という章を設けて、「相模原のカエル合戦」「相模原市に現れた珍しい鳥」や「学校のプールに生



き物が？」など21項目を掲載しています。

いずれも理解しやすく、また、興味を引かれる話題を提供することで、多くの人に手にとってもらえる市史にしたいとの執筆者の方々の熱意が伝わってきます。お楽しみに。

〰〰〰〰〰 好評発売中！「現代資料編」「現代図録編」等 販売書店 〰〰〰〰〰

紀伊国屋書店相模原店（相模大野） ブックスアミ南口店（相模大野） 柴胡書房（文京） ブックス山田（松が枝町）
相模書房本店（相模台） 渡辺書店（相模台） 相模書房女子美術大学店（麻溝台） 久保田書店（千代田） 中村書店
淵野辺本町店（淵野辺本町） 中村書店ダイエー店（上溝） 中村書店本店（横山） 三基書房（田名） 中村書店田名
店（田名） 中村書店橋本店（西橋本） 有隣堂ミウイ橋本店（橋本） カクダイ書店（二本松） 山本書店（津久井町中
野） 敏正堂（相模湖町与瀬） ふじの書房（藤野町小淵）

ある日の調査から～民俗編

大野台、開拓調査

大野台にお住まいの清水要三さんに、戦後、大野台に開拓農家として入植された頃のお話を伺いました。清水さんは長野県出身で、満州からの引揚げ者で構成される神奈川開拓団に加わり、昭和21年1月に大野台に開拓農家として入植しました。

入植当時、現在、米陸軍相模総合補給廠がある場所に宿舎があって、そこから大野台の入植地まで横浜線を使って通い続けたということです。昭和23年に建築資金を借りて入植地の大野台に家を建てるまでの間は、開拓に使う器具や農具は、開拓現場に共同で建てた小屋で管理していたということでした。



開拓当時は^{おかぼ}陸稻、小麦、ビール麦、^{ぼれいしょ}馬鈴薯を作付し、長野県出身の清水さんはソバも植えたり、^{おかぼ}陸稻でおやきを作ったりもしたそうです。

入植当時の苦労話として、台風で家の屋根が飛ばされてしまった話や、肥料を得るためや現金収入を得るために、豚、ニワトリ、ヤギ、羊、ウサギなどの家畜も飼っていたり

りしたというお話も聞くことができました。

清水さん所蔵の上の写真は、苦しかった生活の中でも皆で楽しんだ、現在は無い報徳社の昭和31年のお祭りの際にお御輿が各家々を回っている様子です。

民俗部会報告

3月20日開催



「民俗編」はいよいよ今年度の刊行となり、先ず、刊行までのスケジュールを細かく確認しました。

次いで、ある時代のある場所での生活の有様を撮影した1コマの写真に映し出されている事象に対して、細かく具体的に解説を加えていく「暮らしの写真帖」という特集記事の記述方法の確認が行われました。

編さん室の動き 3月・4月

- | | |
|--|----------------------|
| 3/5日 法政大学大原社会問題研究所調査
(12・19日4/2・9・16・23日にも実施) | 25日 社寺事前調査(上溝) |
| 16日 勝坂有鹿谷遺跡視察 | 27日 民俗聞き取り調査(下溝・大野台) |
| 17日 国立国会図書館文献資料調査 | 4/4日 近現代部会 |
| 20日 民俗部会 | 5日 考古部会 |
| 21日 市史講演会 | 13日 民俗聞き取り調査(星が丘) |
| | 27日 民俗聞き取り調査(下九沢) |

法政大学大原社会問題研究所

資料調査報告

市史編さん室では、社会・労働問題関連資料および文献が豊富に揃っている法政大学大原社会問題研究所での資料調査を行っています。大正8（1919）年に開設されたこの研究所は、現在は町田市相原町にある法政大学多摩キャンパスの図書館・研究所棟の5階にあります。

今回は戦後の社会・労働問題関連資料調査として、各種労働組合の機関紙、労働組合名鑑、農民運動関係資料、開拓関連の新聞、『日本農業新聞』、平和・原水爆禁止運動関連資料の調査を行いました。調査は今後も継続して行われる予定です。



近現代部会報告 4月4日開催

部会では構成案の、章一節一吊り見出しが示され、『現代通史編』の全容が見えてきました。織り込まれるコラムの題目についても絞り込まれ、31項目を掲載することが決まりました。最後に刊行スケジュールを確認し閉会となりました。

『考古編』23年度刊行に向け 考古部会報告

4月12日に開催された部会では、使用する図版（挿図・写真）の説明と意見交換がなされ、今年度の作業スケジュールが確認されました。

今年度は、構成案の検討を中心に、中近世石造物の図化や中世遺跡の現況図作成、平成17年度に資料化作業を行った「勝坂有鹿谷祭祀遺跡」資料の報告書をまとめます。

市史編さん室の新しいスタッフです

山田 不二郎（やまだ ふじお）室長 室長として引き続き市史編さん事業を担当することになりました。相模原市は政令指定都市に移行する重要な時期ですが、その中で刊行計画を着実に進めるよう努力いたします。市民皆さまの一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

近藤 清（こんどう きよし）副主幹 津久井福祉課からまいりました。平成23年度刊行予定の市史続編「考古編」を担当することになりました。私自身、未知の分野なので戸惑いを感じていますが、諸先輩方の指導のもと日々勉強に励み習得に努めていきたいと考えています。どうぞよろしく申し上げます。

金井 理代（かない みちよ）主任 行政システム課より異動してきました。これまで経験してきた職場と違い、とても静かで落ち着いた環境に戸惑っていますが、いい市史ができるよう微力ながらがんばりたいと思います。

大盛況！市史講演会

3月21日（土）の市史講演会は、神崎彰利特別顧問を講師に「日本歴史の中の相模原」シリーズの4回目、「津久井地域(1)」と題した内容で開催しました。会場の市立博物館大会議室には161人の受講者が集まる盛況ぶり。今回の講演は江戸時代、全国で唯一「津久井県」という地域名をとっていた経緯を中心としたもので、『津久井町史』『城山町史』などに収録されている古文書を資料として、明治3年(1870)に「津久井郡」と改称す

るまでが詳しく解説されました。



講演会の様子

続々刊行「相模原市史調査報告書」

「動植物調査目録」(2400円)「相模原周辺の関東ローム層の植物珪酸体からみた過去8万年間の気候・植生変化史」(1500円)「相模原地域の第4紀地史研究のための指標テフラ(火山灰)」(2300円)「縄文時代遺跡資料調査報告書」(1000円)などを刊行します。5月下旬から販売を予定しています。お求めは下段の販売窓口案内をご覧ください。

相模原市史ノート6号発刊



5月下旬から、700円で販売

「座間分離問題」をめぐる政治過程、『相模原市史現代資料編』を読んで、『相模原市史』資料探訪懇談会記録(3)、歴史余話⑥のほか、3月の市史講演会でお話いただき大変好評であった「相模原—その歴史性—津久井地域(1)」や市史編さんだより46号で紹介した「梅宗寺百観音石塔調査」の詳しい報告などを収録しています。どうぞ手にとってご覧ください。お求めは下段の販売窓口案内をご覧ください。

市史・町史の販売窓口案内

◇相模原市史関係の出版物 「相模原市史1～7」「現代資料編」「現代図録編」、相模原市史ノート、各調査報告書、また旧津久井4町の町史等出版物の閲覧・販売は、市史編さん室・市立博物館・行政資料コーナーで行っています。

「相模原市史1～7」「現代資料編」「現代図録編」「相模湖町史」「藤野町史」については相模原市書店組合加盟店(1ページ参照)でも販売しています。

◇旧津久井4町の町史出版物 津久井町・相模湖町・城山町・藤野町の各地域自治区事務所でも販売をしております。